

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成28年6月21日
【事業年度】	第65期（自平成27年4月1日至平成28年3月31日）
【会社名】	通天閣観光株式会社
【英訳名】	The Tsutenkaku Tower Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 西上 雅章
【本店の所在の場所】	大阪市浪速区恵美須東1丁目18番6号
【電話番号】	06（6641）9555
【事務連絡者氏名】	代表取締役副社長 高井 隆光
【最寄りの連絡場所】	大阪市浪速区恵美須東1丁目18番6号
【電話番号】	06（6641）9555
【事務連絡者氏名】	代表取締役副社長 高井 隆光
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期
決算年月	平成24年 3 月	平成25年 3 月	平成26年 3 月	平成27年 3 月	平成28年 3 月
売上高 (千円)	773,084	1,067,433	1,041,632	1,042,418	1,099,562
経常利益 (千円)	283,682	445,447	390,675	417,759	400,865
当期純利益 (千円)	163,540	273,165	221,899	265,068	265,855
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	105,000	105,000	105,000	105,000	105,000
発行済株式総数 (株)	210,000	210,000	210,000	210,000	210,000
純資産額 (千円)	1,525,574	1,788,307	1,947,574	2,204,689	2,462,426
総資産額 (千円)	1,901,073	2,071,268	2,234,482	2,544,556	2,736,303
1株当たり純資産額 (円)	7,325.86	8,588.34	9,795.62	11,088.82	12,394.55
1株当たり配当額 (円)	50.0	40.0	40.0	40.0	40.0
(うち1株当たり中間配当額) (円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	783.95	1,311.83	1,069.86	1,333.20	1,337.55
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	80.3	86.3	87.2	86.6	90.0
自己資本利益率 (%)	11.3	16.5	11.9	12.8	11.4
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
配当性向 (%)	6.4	3.0	3.7	3.0	3.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	342,183	458,689	311,815	403,335	323,898
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	129,391	431,808	314,329	492,357	259,283
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	8,927	10,352	8,029	7,828	7,968
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	398,724	415,253	404,710	307,859	364,505
従業員数 (人)	17	14	14	15	18
[外、平均臨時雇用者数]	[12]	[24]	[30]	[35]	[35]

(注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 当社には関連会社がありませんので、持分法を適用した場合の投資利益については、記載しておりません。

4. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【沿革】

昭和30年7月	会社設立
昭和31年10月	通天閣再建完成 開業
昭和32年4月	(株)日立製作所と主塔広告賃貸借契約を締結
平成6年10月	第1期補修工事(3階屋上から地上部分)を完了 〔設計・管理監督 (株)日立建設設計〕〔施工・飛鳥建設(株)〕
平成8年10月	第2期補修工事(3階屋上から展望台及び中継室)を完了 〔設計・管理監督 (株)日立建設設計〕〔施工・飛鳥建設(株)〕
平成10年10月	円型エレベーター(株)日立製作所製)改修を完了 〔設計・管理監督 (株)日立ビルシステム〕
平成13年10月	主塔エレベーター(株)日立製作所製)改修を完了 〔設計・管理監督 (株)日立製作所〕
平成17年3月	地階改修工事を完了 〔設計・管理監督 (株)日立製作所〕〔施工・飛鳥建設(株)〕
平成22年12月	3階リニューアル工事を完了
平成24年5月	2階・5階展望台リニューアル工事を完了
平成25年12月	地下歌謡劇場跡の「通天閣わくわくランド」改修工事を完了
平成27年5月	免震改修工事を完了〔設計・管理監督・施工 (株)竹中工務店〕

3【事業の内容】

当社は、展望、喫茶売店を主たる事業としております。

当社の事業内容は次のとおりであります。なお、次の3部門は「第5 経理の状況 1 財務諸表等 (1) 財務諸表注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

また、当事業年度より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第5 経理の状況 1 財務諸表等 (1) 財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

展望	展望塔「通天閣」を運営しております。鉄塔内に縦ガラス張りの展望室を設け、観光施設として運用しております。
喫茶売店	鉄塔内に喫茶、土産物販売の売店を設け、販売業務を行っております。
その他	鉄塔のネオン屋外広告、建屋内の店舗貸し、ロイヤリティに係る事業等を行っております。

4【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

(平成28年3月31日現在)

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
18(35)	32.4	6.1	3,339

セグメントの名称	従業員数(名)
展望	15(35)
喫茶売店	
その他	
全社(共通)	3(0)
合計	18(35)

- (注) 1. 従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を()内に外数で記載しております。
 2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 3. 当社は、同一の従業員が複数の事業に従事しております。
 4. 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

(2) 労働組合の状況

該当事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当事業年度の我が国経済は、企業収益や雇用環境の改善が続く中、緩やかな回復基調で推移したものの、円高の進展や物価上昇に対する懸念、アジア諸国の景気減速懸念等から、先行き不透明な状況が続きました。

このような状況にあって当社は、引き続き「安・近・短」指向の観光地としての地位を確立するための集客活動を行って参りました。具体的には、主に関西を拠点とする食品メーカー様等とのタイアップによる限定商品の企画・販売や、各種イベントの実施など、ご来場者の皆様方に楽しんで頂けるための活動を積極的に行ってまいりました。また、来場者の安全確保に必要な展望塔免震改修工事を実施し、当事業年度において工事が完了致しました。

以上の結果、外国人旅行客の増加等により、年間総入場者数は974千人と前事業年度と比べ2.9%増加し、展望売上や喫茶売店売上が好調であったこと等から、売上高は1,099,562千円と、前事業年度に比べ5.5%の増加となりました。

損益面では、喫茶売店売上が好調であったこと等により、売上原価は292,155千円と前事業年度に比べ7.3%増加しました。また、当事業年度は免震改修工事により減価償却費や修繕費が大きく増加したこと等から、販売費及び一般管理費は416,761千円と前事業年度と比べ16.9%増加しました。その結果、営業利益は390,645千円、経常利益は400,865千円と、前事業年度と比べそれぞれ5.6%、4.0%減少しました。また、免震改修工事に伴う固定資産除却損を計上したこと及び法人税等を支払ったこと等により、当期純利益は265,855千円となり、前事業年度に比べ0.3%増加しました。

セグメントごとの業績の概要は以下のとおりであります。

なお、当事業年度より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。（以下、「2 生産、受注及び販売の状況」及び「7 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」においても同じ。）

（展望事業）

来場者数の増加等により、売上高は505,688千円と前事業年度に比べ5.7%の増加となりました。

（喫茶売店事業）

来場者数の増加等により、売上高は457,084千円と前事業年度に比べ8.7%の増加となりました。

（その他事業）

賃貸料収入の減少等により、売上高は136,788千円と前事業年度に比べ4.7%の減少となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当事業年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、法人税等の支払いや免震補強工事に伴う有形固定資産の取得による支出があったものの、税引前当期純利益や減価償却費の計上等により、前事業年度末に比べ56,646千円増加し、当事業年度末には364,505千円となりました。

当事業年度中におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において、営業活動の結果得られた資金は前事業年度に比べ79,437千円減少し、323,898千円となりました。

これは、その他流動負債が減少したほか、法人税等の支払額が増加したこと等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において、投資活動の結果使用した資金は前事業年度に比べ233,073千円減少し、259,283千円となりました。

これは、当事業年度に完成した免震改修工事に係る有形固定資産の取得による支出が減少したほか、定期預金の払戻による収入が増加したこと等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当事業年度において、財務活動の結果使用した資金は前事業年度に比べ139千円増加し、7,968千円となりました。

これは、配当金の支払い及び自己株式の取得によるものです。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 仕入実績

セグメントの名称	金額（千円）	前期比（％）
喫茶売店	299,037	105.2

（注） 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

該当事項はありません。

(3) 販売実績

当事業年度の販売実績を事業のセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額（千円）	前期比（％）
展望	505,688	105.7
喫茶売店	457,084	108.7
その他	136,788	95.3
合計	1,099,562	105.5

（注） 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(4) 来塔者数

セグメントの名称	来塔者数（千人）	前期比（％）
展望	974	102.9

3【対処すべき課題】

今後の見通しにつきましては、消費者意識が多様化する昨今の状況に対応できる施策を講じ、安定的継続的な展望客の招致活動を行うとともに、継続的な設備改修の実施を重要課題と認識しております。

地元「新世界」の「観光看板」としての重責を担い、観光名所としての責務を果たすよう財務体質の充実を図り、同時に株主への安定配当の継続実施を行っていく所存であります。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

事業運営に関するリスク

当社の主要設備

当社の主要設備である「通天閣」展望塔は大阪市から道路占有許可を受けている土地の上に設置しております。大阪市の政策に依存して営業を行っております。

天候に関するリスク

当社の経営は天候の影響を大きく受けます。雨天や猛暑により来塔者数が大きく増減し、業績も大きく変動いたします。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において、当社が判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されており、財政状態及び経営成績に関する以下の分析が行われております。

当社経営陣は、財務諸表の作成に際し、決算日における資産・負債の報告数値、及び偶発資産・負債の開示並びに報告期間における収入・費用の報告数値に影響を与える見積及び仮設定を行っております。具体的には退職給付引当金等が該当しますが、いずれも適正に見積もっており、また、金額が僅少であるため、損益に与える影響は極めて軽微であります。

(2) 当事業年度の経営成績の分析

当社の当事業年度の経営成績は、外国人旅行客の増加等により、年間総入場者数は974千人と前事業年度と比べ2.9%増加し、展望売上や喫茶売店売上が好調であったこと等から、売上高は1,099,562千円と、前事業年度に比べ5.5%の増加となりました。

損益面では、喫茶売店売上が好調であったこと等により、売上原価は292,155千円と前事業年度に比べ7.3%増加しました。また、当事業年度は免震改修工事により減価償却費や修繕費が大きく増加したこと等から、販売費及び一般管理費は416,761千円と前事業年度と比べ16.9%増加しました。その結果、営業利益は390,645千円、経常利益は400,865千円と、前事業年度と比べそれぞれ5.6%、4.0%減少しました。また、免震改修工事に伴う固定資産除却損を計上したこと及び法人税等を支払ったこと等により、当期純利益は265,855千円となり、前事業年度に比べ0.3%増加しました。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社は観光施設の運営を営業の主体としているため、景気動向や天候等、観光業に影響を与える要因によって経営成績が変動する可能性があります。

(4) 経営戦略の現状と見通し

当社は、観光施設の運営を営業の主体としており、観光客の誘致を経営の重要課題としております。消費者趣向の変化や娯楽設備の多様化に対応するため、在阪諸施設や鉄道会社等との連携を深め、相互に誘致策を協議検討するとともに、イベント開催等による集客効果を見込んでおります。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社の資金の状況は、営業活動によるキャッシュ・フローでは、前事業年度に比べ79,437千円少ない、323,898千円のキャッシュを得ております。これは、その他流動負債が減少したほか、法人税等の支払額が増加したこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、前事業年度に比べ233,073千円少ない、259,283千円のキャッシュを支払っております。これは、当事業年度に完成した免震改修工事に係る有形固定資産の取得による支出が減少したこと等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、前事業年度に比べ139千円多い、7,968千円のキャッシュを支払っております。これは、配当金の支払い及び自己株式の取得によるものです。

以上の結果、当事業年度末における資金残高は、前事業年度より56,646千円多い、364,505千円となっております。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社経営陣は、現在の事業環境及び入手可能な情報に基づき最善の経営方針を立案するよう努めております。しかしながら、近年の娯楽施設運営の問題、具体的には少子高齢化対策、集客斡旋施策は厳しさを増しております。

このような状況の中、当社経営陣は継続的な設備投資や各種イベントの企画・実施を通じ、来場者の再訪を促す魅力ある施設運営を行う所存であります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当事業年度において、展望塔免震改修工事等により、総額318,100千円の設備投資を実施しました。

2【主要な設備の状況】

当社は、大阪市浪速区において展望塔「通天閣」の管理・運営を行っております。

主要な設備は以下のとおりであります。

(平成28年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (人)
			建物	構築物	電気設備	土地 (面積㎡)	その他	合計	
本社及び 展望塔	展望、喫茶売 店、その他	本社事務所 及び展望塔	28,953	980,471	129,488	3,104 (204.00)	301,975	1,443,992	18(35)

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、昇降機設備、給排水衛生ガス設備、冷暖房通風設備、その他の付属設備、工具器具及び備品であります。なお、金額には消費税等を含めておりません。

2. 上記の他、大阪市からの道路占用許可地があり、その面積は781.78㎡であります。

3. 従業員数の()は、臨時雇用者数を外書しております。

3【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	800,000
計	800,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成28年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成28年6月21日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	210,000	210,000	非上場	単元株式数100株
計	210,000	210,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高(千円)
昭和32年4月1日 (注1)	70,000	210,000	35,000	105,000	-	-

注1 有償株主割当 1:0.5
 発行価格 500円
 資本組入額 500円

(6)【所有者別状況】

平成28年3月31日現在

区分	株式の状況（ 1 単元の株式数 100株）								単元未満株 式の状況 （株）
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数（人）	-	-	-	10	-	-	153	163	-
所有株式数 （単元）	-	-	-	56	-	-	2,015	2,071	2,900
所有株式数の 割合（％）	-	-	-	2.7	-	-	97.3	100.0	-

(注) 自己株式11,330株は、「個人その他」に113単元及び「単元未満株式の状況」に30株を含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成28年 3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
高井隆光	大阪市浪速区	66,415	31.6
西上雅章	大阪市阿倍野区	65,585	31.2
西上百合子	大阪市阿倍野区	4,310	2.1
西岡卓爾	大阪市東住吉区	4,000	1.9
東芝泰子	奈良県奈良市	2,740	1.3
東芝寿也	奈良県奈良市	2,600	1.2
近藤維良	大阪市浪速区	2,200	1.0
石田春久	京都市中京区	1,900	0.9
(株)大丸松坂屋百貨店	東京都江東区木場二丁目18番11号	1,500	0.7
西上弘晃	大阪市阿倍野区	1,300	0.6
計	-	152,550	72.5

(注) 上記のほか、自己株式が11,330株あります。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年 3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 11,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 195,800	1,958	-
単元未満株式	普通株式 2,900	-	-
発行済株式総数	210,000	-	-
総株主の議決権	-	1,958	-

【自己株式等】

平成28年 3月31日現在

所有者の氏名又は 名称	所有者の住所	自己名義所有株 式数(株)	他人名義所有株 式数(株)	所有株式数の合 計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
通天閣観光(株)	大阪市浪速区 恵美須東 1-18-6	11,300	-	11,300	5.4
計	-	11,300	-	11,300	5.4

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	151	166
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成28年3月31日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区 分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (千円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己 株式	-	-	-	-
合併, 株式交換, 会社分割に係 る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(-)	-	-	-	-
保有自己株式数	11,330	-	11,330	-

3【配当政策】

当社は開業以来、株主への利益還元を重要な課題の一つと考え、将来の諸設備の維持修繕と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続していくことを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は期末配当の年1回を基本的な方針としており、配当の決定機関は株主総会であります。

当事業年度の配当につきましては上記方針に基づき、1株当たり40円の普通配当に加え、開業60周年を迎えるにあたり記念配当20円を増額し、1株につき合計60円とすることを決議いたしました。

内部留保につきましては、来塔者の皆様により楽しんで頂くための各種設備改修工事のために投入することとしております。

なお、当事業年度にかかる剰余金の配当は以下のとおりとしております。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成28年6月21日 定時株主総会決議	11,920	60

4【株価の推移】

非上場のため該当事項はありません。

5【役員の状況】

男性 4 名 女性 - 名 （ 役員のうち女性の比率 - % ）

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長		西上 雅章	昭和25年 6 月29日生	昭和62年 6 月 当社取締役就任 平成 7 年 9 月 取締役副社長就任 平成 9 年 6 月 代表取締役副社長就任 平成15年 6 月 代表取締役社長就任（現） 平成27年10月 追手門学院大学客員教授（現）	(注) 3	65,585
代表取締役 副社長		高井 隆光	昭和49年12月15日生	平成17年 6 月 当社取締役副社長就任 平成27年 6 月 当社代表取締役副社長就任（現）	(注) 3	66,415
取締役		井村 登	昭和26年 1 月17日生	昭和51年12月 井村税理士事務所開業 昭和58年 2 月 井村公認会計士事務所所長（現） 平成17年 6 月 当社監査役就任 平成20年 4 月 関西学院大学専門職大学院教授 平成21年 6 月 当社取締役就任（現） 平成25年 3 月 大阪高等・地方裁判所専門委員（現）	(注) 3	-
監査役		鈴木 浩巳	昭和35年4月13日生	昭和61年 1 月 鈴木司法書士事務所開業 平成15年 5 月 日本司法書士会連合会代議員（現） 平成18年 5 月 神戸学院大学法学部客員教授（現） 平成21年 5 月 兵庫県司法書士会副会長（現） 平成21年 6 月 当社監査役就任（現） 平成27年 8 月 日本司法書士連合会総合研究所主幹（現）	(注) 4	-
計						132,000

- （注）1．取締役井村登は、社外取締役であります。
- 2．監査役鈴木浩巳は、社外監査役であります。
- 3．平成27年 6 月23日から選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時
までであります。
- 4．平成25年 6 月25日から選任後 4 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時
までであります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の重要課題であると認識しており、経営の透明性と健全性の確保を図り、適正かつ効率的な業務執行を進めるべく、今後もコーポレート・ガバナンスの一層の強化に努めて参ります。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

当社の取締役会は、取締役3名で構成され、経営方針その他の重要事項に関する意思決定と業務執行状況の監督を行っております。なお、取締役1名は社外取締役であります。

また、当社は監査役制度を採用しており、監査役1名を選任しております。当該監査役は取締役会へ出席することで、経営監視機能の強化を図っております。なお、当該監査役は社外監査役であります。

リスク管理体制の整備状況

当社は、想定し得るリスクに対して危機管理体制を整備し対処しております。

内部監査及び監査役監査の状況

当社は監査役として、1名の社外監査役を選任しており、独立性及び透明性を確保しつつ、取締役の業務執行に対し厳正な監視を行っております。監査役は監査法人との連携を保ちながら情報交換を行い、財務報告の信頼性の検証に努めております。

当社は小規模な組織であるため内部監査部門は設置しておりませんが、管理部門が会計的観点から業務遂行状況を確認し、取締役会に報告しております。

会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は高谷晋介氏、許仁九氏の2名であり、両氏は仰星監査法人に所属しております。また、当社の会計監査業務にかかる補助者は公認会計士3名、その他2名であります。

社外取締役及び社外監査役との関係

当社は社外取締役及び社外監査役との間に、特別な利害関係はありません。

役員報酬の内容

当事業年度において、取締役（社外取締役を除く）2名に対して支払った役員報酬の総額は35,850千円であります。また、社外役員2名に対して支払った役員報酬の総額は4,440千円であります。

その他

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
5,600	-	5,600	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、当社が認識している外部リスク及び内部リスクを勘案し、財務諸表の適正性に対する意見表明を行いうる監査日数、公認会計士等の経験を考慮し、監査公認会計士等と交渉の上、決定することを基本方針としております。

第5【経理の状況】

1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）の財務諸表について、仰星監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、的確に対応できるようにするため、監査法人等と常に密接な連携を図るとともに、専門情報誌の定期購読による情報収集に努め、会計基準等の変更に対応しております。

1 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年 3 月31日)	当事業年度 (平成28年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,134,358	1,059,072
売掛金	856	967
商品	26,006	32,919
貯蔵品	857	2,131
前払費用	57	123
繰延税金資産	7,633	5,598
その他	38,673	49,915
流動資産合計	1,208,443	1,150,727
固定資産		
有形固定資産		
建物	78,254	78,254
減価償却累計額	47,568	49,301
建物（純額）	30,686	28,953
構築物	1,194,822	1,171,053
減価償却累計額	687,387	733,581
構築物（純額）	507,434	437,471
昇降機設備	207,745	207,745
減価償却累計額	172,875	177,395
昇降機設備（純額）	34,870	30,350
給排水衛生ガス設備	99,299	136,526
減価償却累計額	62,177	71,336
給排水衛生ガス設備（純額）	37,121	65,190
電気設備	227,991	288,740
減価償却累計額	141,416	159,252
電気設備（純額）	86,574	129,488
冷暖房通風設備	72,639	76,785
減価償却累計額	38,184	43,619
冷暖房通風設備（純額）	34,455	33,166
その他の附属設備	1 288,106	1 343,669
減価償却累計額	168,185	198,460
その他の附属設備（純額）	119,920	145,208
工具、器具及び備品	199,421	206,818
減価償却累計額	167,229	178,760
工具、器具及び備品（純額）	32,191	28,058
土地	3,104	3,104
建設仮勘定	368,568	-
有形固定資産合計	1,254,927	1,443,992
無形固定資産		
電話加入権	205	205
商標権	100	70
ソフトウェア	1,343	842
無形固定資産合計	1,648	1,118

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年 3 月31日)	当事業年度 (平成28年 3 月31日)
投資その他の資産		
長期預金	43,000	102,200
長期前払費用	150	-
繰延税金資産	26,255	27,116
その他	10,130	11,148
投資その他の資産合計	79,536	140,465
固定資産合計	1,336,113	1,585,576
資産合計	2,544,556	2,736,303
負債の部		
流動負債		
買掛金	29,964	26,891
未払金	16,517	19,358
未払配当金	45,239	44,841
未払費用	3,795	4,411
未払法人税等	85,320	63,249
未払消費税等	32,296	-
前受金	500	448
受託販売預り金	8,143	7,849
預り金	1,839	2,011
賞与引当金	3,225	4,037
その他	18,922	-
流動負債合計	245,765	173,100
固定負債		
預り保証金	12,780	12,780
退職給付引当金	7,058	8,291
役員退職慰労引当金	74,262	79,705
固定負債合計	94,101	100,777
負債合計	339,866	273,877
純資産の部		
株主資本		
資本金	105,000	105,000
利益剰余金		
利益準備金	20,605	21,400
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	2,135,186	2,392,293
利益剰余金合計	2,155,792	2,413,694
自己株式	56,102	56,268
株主資本合計	2,204,689	2,462,426
純資産合計	2,204,689	2,462,426
負債純資産合計	2,544,556	2,736,303

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
売上高	1,042,418	1,099,562
売上原価		
商品期首たな卸高	14,191	26,006
当期商品仕入高	284,148	299,037
合計	298,339	325,043
商品期末たな卸高	26,006	32,919
喫茶売店売上原価	272,333	292,124
その他の売上原価	67	31
売上原価合計	272,400	292,155
売上総利益	770,017	807,406
販売費及び一般管理費		
役員報酬	42,000	40,290
給与及び手当	72,948	75,589
賞与引当金繰入額	3,225	4,037
退職給付費用	2,092	1,988
役員退職慰労引当金繰入額	5,784	5,443
租税公課	12,820	13,010
広告宣伝費	2,715	12,037
電力料	12,613	12,413
減価償却費	116,851	129,252
修繕費	4,921	21,478
保守料	21,720	20,741
その他	58,713	80,478
販売費及び一般管理費合計	356,407	416,761
営業利益	413,609	390,645
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,101	1,076
受取保険金	2,079	2,207
未払配当金除斥益	454	548
違約金収入	712	-
工事負担金等受入額	-	6,500
雑収入	7	54
営業外収益合計	4,355	10,385
営業外費用		
雑損失	205	165
営業外費用合計	205	165
経常利益	417,759	400,865
特別利益		
補助金収入	8,000	18,922
特別利益合計	8,000	18,922

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
特別損失		
固定資産除却損	1 3,713	1 463
固定資産圧縮損	2 8,000	2 18,922
特別損失合計	11,713	19,385
税引前当期純利益	414,046	400,401
法人税、住民税及び事業税	148,170	133,371
法人税等調整額	807	1,174
法人税等合計	148,978	134,546
当期純利益	265,068	265,855

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日）

（単位：千円）

	株主資本						純資産合計
	資本金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
		利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計			
			繰越利益剰余金				
当期首残高	105,000	19,810	1,878,866	1,898,676	56,102	1,947,574	1,947,574
当期変動額							
剰余金の配当			7,952	7,952		7,952	7,952
剰余金の配当に伴う積立		795	795	-		-	-
当期純利益			265,068	265,068		265,068	265,068
当期変動額合計	-	795	256,320	257,115	-	257,115	257,115
当期末残高	105,000	20,605	2,135,186	2,155,792	56,102	2,204,689	2,204,689

当事業年度（自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日）

（単位：千円）

	株主資本						純資産合計
	資本金	利益剰余金			自己株式	株主資本合計	
		利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計			
			繰越利益剰余金				
当期首残高	105,000	20,605	2,135,186	2,155,792	56,102	2,204,689	2,204,689
当期変動額							
剰余金の配当			7,952	7,952		7,952	7,952
剰余金の配当に伴う積立		795	795	-		-	-
当期純利益			265,855	265,855		265,855	265,855
自己株式の取得					166	166	166
当期変動額合計	-	795	257,106	257,902	166	257,736	257,736
当期末残高	105,000	21,400	2,392,293	2,413,694	56,268	2,462,426	2,462,426

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	414,046	400,401
減価償却費	116,851	129,252
賞与引当金の増減額（ は減少）	359	812
退職給付引当金の増減額（ は減少）	7,254	1,232
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	5,784	5,443
受取利息及び受取配当金	1,101	1,074
有形固定資産除却損	3,713	463
補助金収入	8,000	18,922
固定資産圧縮損	8,000	18,922
売上債権の増減額（ は増加）	794	110
たな卸資産の増減額（ は増加）	11,960	8,186
その他の流動資産の増減額（ は増加）	21,051	19,396
仕入債務の増減額（ は減少）	2,796	3,073
受託販売預り金の増減額（ は減少）	1,286	293
その他の流動負債の増減額（ は減少）	18,310	30,945
その他	18,750	3,730
小計	501,250	470,796
利息及び配当金の受取額	841	1,161
法人税等の支払額	117,678	156,059
補助金の受取額	18,922	8,000
営業活動によるキャッシュ・フロー	403,335	323,898
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	226,025	364,000
定期預金の預入による支出	316,091	291,266
有形固定資産の取得による支出	402,292	332,016
投資活動によるキャッシュ・フロー	492,357	259,283
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	-	166
配当金の支払額	7,828	7,802
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,828	7,968
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	96,850	56,646
現金及び現金同等物の期首残高	404,710	307,859
現金及び現金同等物の期末残高	307,859	364,505

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. たな卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）は定率法によっております。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

無形固定資産は定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（５年）に基づいております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち、当事業年度に負担する部分の金額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務（簡便法）及び中小企業退職金共済制度による給付見込額に基づき、当事業年度において発生していると認められる金額を計上しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるために内規に基づく期末要支給額を計上しております。

4. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引出可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値変動について僅少なりスクしか負わない取得日から３カ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1 有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳累計額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
構築物(千円)	-	18,922
その他の附属設備(千円)	8,000	8,000
合計(千円)	8,000	26,922

(損益計算書関係)

1 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)
建物 (千円)	1,748	-
構築物 (千円)	-	463
電気設備 (千円)	190	-
冷暖房設備 (千円)	1,181	-
その他の附属設備 (千円)	389	-
工具、器具及び備品 (千円)	203	-
合計 (千円)	3,713	463

2 固定資産圧縮損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)
構築物 (千円)	-	18,922
その他の附属設備 (千円)	8,000	-

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	210,000	-	-	210,000
合計	210,000	-	-	210,000
自己株式				
普通株式(注)	11,179	-	-	11,179
合計	11,179	-	-	11,179

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年6月24日 定時株主総会	普通株式	7,952	40	平成26年3月31日	平成26年6月30日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年6月23日 定時株主総会	普通株式	7,952	利益剰余金	40	平成27年3月31日	平成27年6月30日

当事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度増加 株式数(株)	当事業年度減少 株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	210,000	-	-	210,000
合計	210,000	-	-	210,000
自己株式				
普通株式(注)	11,179	151	-	11,330
合計	11,179	151	-	11,330

(注) 普通株式の自己株式の増加151株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年6月23日 定時株主総会	普通株式	7,952	40	平成27年3月31日	平成27年6月30日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年6月21日 定時株主総会	普通株式	11,920	利益剰余金	60	平成28年3月31日	平成28年6月30日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
現金及び預金勘定	1,134,358千円	1,059,072千円
預入期間が3カ月を超える定期預金	826,499	694,566
現金及び現金同等物	307,859	364,505

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については、原則として元本保証・固定金利の預金等に限定しております。また、資金調達については、原則として営業活動によるキャッシュ・フローでの調達を基本としておりますが、必要に応じ、銀行等金融機関からの借入とする方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。営業債権については、債権管理者が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが極めて短期に決済されるものであります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

前事業年度（平成27年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,134,358	1,134,358	-
(2) 売掛金	856	856	-
(3) 長期預金	43,000	42,688	311
資産計	1,178,215	1,177,904	311
(4) 買掛金	29,964	29,964	-
(5) 未払金	16,517	16,517	-
(6) 未払配当金	45,239	45,239	-
(7) 未払法人税等	85,320	85,320	-
(8) 未払消費税等	32,296	32,296	-
(9) 預り金	1,839	1,839	-
(10) 受託販売預り金	8,143	8,143	-
負債計	219,321	219,321	-

当事業年度（平成28年3月31日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	1,059,072	1,059,072	-
(2) 売掛金	967	967	-
(3) 長期預金	102,200	103,330	1,130
資産計	1,162,239	1,163,370	1,130
(4) 買掛金	26,891	26,891	-
(5) 未払金	19,358	19,358	-
(6) 未払配当金	44,841	44,841	-
(7) 未払法人税等	63,249	63,249	-
(8) 未払消費税等	-	-	-
(9) 預り金	2,011	2,011	-
(10) 受託販売預り金	7,849	7,849	-
負債計	164,203	164,203	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金、(4) 買掛金、(5) 未払金、(6) 未払配当金、(7) 未払法人税等、(8) 未払消費税等、(9) 預り金、(10) 受託販売預り金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期預金

元利金の合計額を、リスクフリーレートで割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位: 千円)

区分	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
預り保証金	12,780	12,780

預り保証金は、期限の定めがなく、将来キャッシュ・フローの予測が困難であることから、時価開示の対象とはしていません。

(注3) 金銭債権の決算日後の償還予定額

前事業年度(平成27年3月31日)

(単位: 千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	1,134,358	-	-	-
売掛金	856	-	-	-
長期預金	-	33,000	10,000	-
合計	1,135,215	33,000	10,000	-

当事業年度(平成28年3月31日)

(単位: 千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	1,059,072	-	-	-
売掛金	967	-	-	-
長期預金	-	92,200	10,000	-
合計	1,060,039	92,200	10,000	-

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。ただし、確定拠出型の制度である中小企業退職金共済制度に加入しており、同制度からの支給額を控除した金額を当社から退職一時金として支給しております。

なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)
退職給付引当金の期首残高	14,313千円	7,058千円
退職給付費用	2,092	1,988
退職給付の支払額	8,316	-
制度への拠出額	1,031	756
退職給付引当金の期末残高	7,058	8,291

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	前事業年度 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)
積立型制度の退職給付債務	13,115千円	15,313千円
年金資産	6,056	7,022
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	7,058	8,291
退職給付引当金	7,058	8,291
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	7,058	8,291

(3) 退職給付費用

	前事業年度 (自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日)
簡便法で計算した退職給付費用	2,092千円	1,988千円

(税効果会計関係)

1 . 繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成27年 3 月31日)	当事業年度 (平成28年 3 月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金損金不算入額	1,064	1,244
未払事業税否認額	6,006	3,796
退職給付引当金損金算入限度超過額	2,274	2,535
役員退職慰労引当金損金不算入額	23,927	24,374
その他	615	764
繰延税金資産計	33,889	32,714
評価性引当額	-	-
繰延税金資産の純額	33,889	32,714

2 . 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3 . 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月29日に国会で成立し、平成28年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、前事業年度の計算に使用した32.2%から、平成28年4月1日に開始する事業年度及び平成29年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については30.8%に、平成30年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については30.6%になります。

この税率変更により、繰延税金資産及び法人税等調整額がそれぞれ1,708千円減少しております。

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、通天閣及び同内の喫茶店・売店の運営を主な事業としていることから、サービスの種類・性質等を考慮し、「展望事業」、「喫茶売店事業」の2つを報告セグメントとしております。

なお、当社の事業全体に占める割合等から総合的に勘案した結果、従来は「展望事業」、「喫茶売店事業」、「広告事業」及び「賃貸事業」の4つを報告セグメントとしておりましたが、当事業年度から「展望事業」及び「喫茶売店事業」の2つを報告セグメントとしております。

なお、前事業年度のセグメント情報は、変更後の報告セグメント区分に基づき作成したものを開示しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告セグメントの会計処理方法は、「重要な会計方針」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、売上総利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	展望	喫茶売店	計		
売上高					
外部顧客への売上高	478,205	420,610	898,815	143,602	1,042,418
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	478,205	420,610	898,815	143,602	1,042,418
セグメント利益	478,205	148,276	626,481	143,535	770,017
セグメント資産	-	-	-	2,544,556	2,544,556
その他の項目					
減価償却費	-	-	-	116,851	116,851
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	-	-	-	418,975	418,975

（注） 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業や賃貸事業、全社に係る損益及び資産が含まれております。

当事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			その他 （注）	合計
	展望	喫茶売店	計		
売上高					
外部顧客への売上高	505,688	457,084	962,773	136,788	1,099,562
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	505,688	457,084	962,773	136,788	1,099,562
セグメント利益	505,688	164,960	670,648	136,757	807,406
セグメント資産	-	-	-	2,736,303	2,736,303
その他の項目					
減価償却費	-	-	-	129,252	129,252
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	-	-	-	318,100	318,100

（注） 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業や賃貸事業、全社に係る損益及び資産が含まれております。

- 4．報告セグメント合計額と財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）
 該当事項はありません。

【関連情報】

前事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

- 1．製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	展望	喫茶売店	その他	合計
外部顧客への売上高	478,205	420,610	143,602	1,042,418

- 2．地域ごとの情報

- (1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

- (2) 有形固定資産

海外に所在している有形固定資産はないため、該当事項はありません。

当事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

- 1．製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	展望	喫茶売店	その他	合計
外部顧客への売上高	505,688	457,084	136,788	1,099,562

- 2．地域ごとの情報

- (1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

- (2) 有形固定資産

海外に所在している有形固定資産はないため、該当事項はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度（自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日）
 該当事項はありません。

当事業年度（自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日）
 該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前事業年度（自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日）
 該当事項はありません。

当事業年度（自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日）
 該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前事業年度（自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日）
 該当事項はありません。

当事業年度（自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日）
 該当事項はありません。

【関連当事者情報】

該当事項はありません。

（ 1 株当たり情報 ）

	前事業年度 （ 自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日 ）	当事業年度 （ 自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日 ）
1 株当たり純資産額	11,088円82銭	12,394円55銭
1 株当たり当期純利益	1,333円20銭	1,337円55銭

（ 注 ） 1 . 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 . 1 株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 （ 自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日 ）	当事業年度 （ 自 平成27年 4 月 1 日 至 平成28年 3 月31日 ）
当期純利益（千円）	265,068	265,855
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純利益（千円）	265,068	265,855
期中平均株式数（株）	198,821	198,763

（ 重要な後発事象 ）

該当事項はありません。

【附属明細表】

(イ) 【有価証券明細表】

該当事項はありません。

(ロ) 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	78,254	-	-	78,254	49,301	1,732	28,953
構築物	1,194,822	520,724	1,493	1,714,053	733,581	47,224	980,471
昇降機設備	207,745	-	-	207,745	177,395	4,519	30,350
給排水衛生ガス設備	99,299	37,227	-	136,526	71,336	9,158	65,190
電気設備	227,991	60,749	-	288,740	159,252	17,836	129,488
冷暖房通風設備	72,639	4,145	-	76,785	43,619	5,434	33,166
その他の附属設備	288,106	55,562	-	343,669	198,460	30,274	145,208
工具、器具及び備品	199,421	8,258	861	206,818	178,760	12,391	28,058
土地	3,104	-	-	3,104	-	-	3,104
建設仮勘定	368,568	-	368,568	-	-	-	-
有形固定資産計	2,739,953	686,668	370,922	3,055,700	1,611,707	128,572	1,443,992
無形固定資産							
電話加入権	205	-	-	205	-	-	205
商標権	300	-	-	300	230	30	70
ソフトウェア	2,503	-	-	2,503	1,661	500	842
無形固定資産計	3,009	-	-	3,009	1,891	530	1,118
長期前払費用	1,000	-	-	1,000	1,000	150	-

(注) 当期増加額の主なものは次のとおりであります。

構築物 展望塔免震改修工事 437,595千円

(ハ) 【社債明細表】

該当事項はありません。

(二) 【借入金等明細表】

該当事項はありません。

(水) 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
賞与引当金	3,225	4,037	3,225	-	4,037
役員退職慰労引当金	74,262	5,443	-	-	79,705

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額（千円）
現金	4,375
預金	
当座預金	49,583
普通預金	307,676
定期預金	694,566
通常貯金	2,870
小計	1,054,696
合計	1,059,072

売掛金

相手先	金額（千円）
(株)読売旅行	158
(株)J T B	84
その他	724
合計	967

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 （千円）	当期発生高 （千円）	当期回収高 （千円）	当期末残高 （千円）	回収率（％）	滞留期間（日）
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} \div \frac{(B)}{366}$
856	53,163	53,052	967	98.2	6.3

商品

品名	金額（千円）
土産品（お菓子 他）	32,919
合計	32,919

貯蔵品

品名	金額（千円）
事務消耗品他	2,131
合計	2,131

長期預金

金融機関	金額（千円）
大阪信用金庫	92,200
(株)ゆうちょ銀行	10,000
合計	102,200

買掛金

相手先	金額（千円）
金星堂商事(株)	6,165
江崎グリコ(株)	3,344
モロゾフ(株)	2,505
(株)B O N	2,120
やぶ屋	1,389
その他	11,365
合計	26,891

（３）【その他】

該当事項はありません。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4 月 1 日から 3 月31日まで
定時株主総会	6 月中
基準日	3 月31日
株券の種類	1 株券、10株券、50株券、100株券
剰余金の配当の基準日	3 月31日
1 単元の株式数	100株
株式の名義書換え	
取扱場所	大阪市浪速区恵美須東 1 丁目18番 6 号 当社 株式課
株主名簿管理人	なし
取次所	なし
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	無料
単元未満株式の買取り	
取扱場所	大阪市浪速区恵美須東 1 丁目18番 6 号 当社 株式課
株主名簿管理人	なし
取次所	なし
買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、官報に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.tsutenkaku.co.jp/
株主に対する特典	株主優待方法 持株100株ごとに優待券を 1 力年 5 枚

（注）１．当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第 2 項各号に掲げる権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに取得請求権付株式の取得を請求する権利以外の権利を有しておりません。

２．平成28年 6 月21日開催の定時株主総会の決議により定款が変更され、会社の公告方法は次のとおりとなりました。

当会社の公告は電子公告によりこれを行う。但し、電子公告を行うことができない事故やその他のやむを得ない事由が生じた時は官報に掲載する。

第 7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は上場会社ではありませんので、金融商品取引法第24条の 7 第 1 項の適用がありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第64期）（自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日） 平成27年 6 月23日近畿財務局長に提出

(2) 半期報告書

（第65期中）（自 平成27年 4 月 1 日 至 平成27年 9 月30日） 平成27年12月18日近畿財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成28年 6 月21日

通天閣観光株式会社

取締役会 御中

仰 星 監 査 法 人

代 表 社 員 公 認 会 計 士 高 谷 晋 介 印
業 務 執 行 社 員

業 務 執 行 社 員 公 認 会 計 士 許 仁 九 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている通天閣観光株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第65期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、通天閣観光株式会社の平成28年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。